JSP

建材トップランナー制度対象製品
押出法ポリスチレンフォーム断熱材
2030年度目標値0.03036W/(m･K)

建築用 高性能・新次世代型断熱材

ミラフォーム®ラムダ

押出法ポリスチレンフォーム[JIS A 9521]

断熱性能を極限までアップした〈ミラフォームラムダ〉で、
RC造住宅にさらなる快適さを!!

建築用 高性能・新次世代型断熱材

ミラフォーム®ラムダ

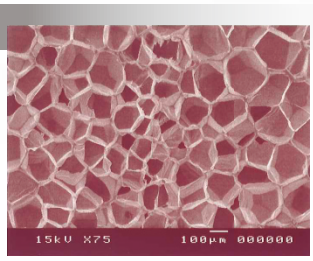
「ミラフォームΛ（ラムダ）はJSPがこれまで培ったプラスチック発泡技術を駆使して開発した高性能・新次世代型断熱材です。
「ミラフォーム」に特殊技術を加えることで、今まで押出法ポリスチレンフォームでは限界とされていた断熱性能をさらにレベルアップすることに成功しました。

〔熱伝導率0.022W/m・K（23℃）〕

住宅の高性能化が推進される中、画期的断熱材として期待が寄せられています。

超高性能な断熱性

熱伝導率0.022W/m・K（23℃）を実現。
吸水性が低く安定した性能を発揮します。



ミラフォームΛ（ラムダ）の気泡写真

高断熱のメカニズム

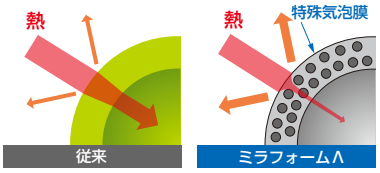
気泡膜の新技術による
輻射熱の抑制・ガスバリア性UP

＋

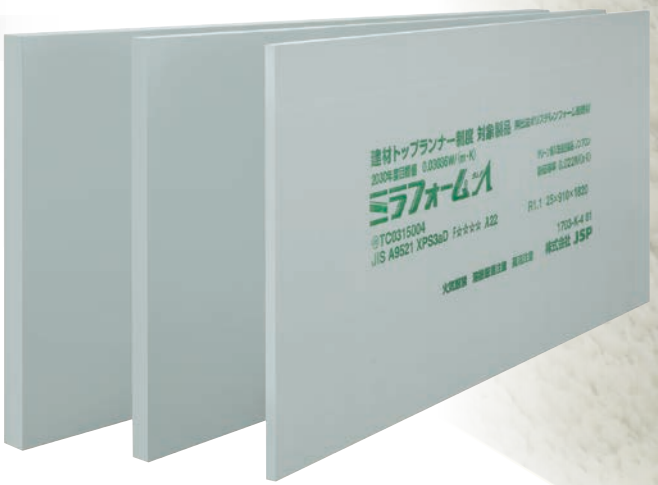
気泡形状による
熱伝導の抑制効果

↓

超高断熱化の実現



熱が気泡膜を透過するイメージ



環境・健康・安全対策

ノンフロン・ノンホルムアルデヒド・4VOC基準に適合。

▶規格

厚さ（mm）	25・30・40・50・55・75・90・100
幅（mm）	910
長さ（mm）	1820
表面状態・色	カットボード・シルバー

▶基本物性と比較

項　目	単　位	ミラフォームΛ（XPS3aD）	硬質ウレタンフォーム2種2号A	吹き付け硬質※1 ウレタンフォームA種1H	XPS3bA	測定法
密度	kg/m³	25以上	25以上		25以上	JIS A 9521
熱伝導率	W/m・K	0.022以下	0.024以下	0.026以下	0.028以下	
圧縮強さ	N/cm²	10以上	8以上	8以上	20以上	
曲げ強さ	N/cm²	20以上	15以上		25以上	
吸水量	g/100cm²	0.01以下※2	3.0以下		0.01以下※2	
透湿係数	ng/m²・s・Pa	145以下	40以下		145以下	
燃焼性※3		試験方法A合格	試験方法B合格	試験方法B合格	試験方法A合格	

※1　吹き付け硬質ウレタンフォームA種1Hの測定方法は、JIS A 9526等による。
※2　アルコール法
※3　3秒以内に炎が消えて、残じんがなく、かつ、燃焼限界指示線を越えて燃焼しない

より居住スペースを確保するなら
断然「ミラフォームラムダ」です。

仕様基準　必要断熱厚さ（mm）

RC造／内断熱　　5mm単位

地域	部　位	基準熱抵抗値 (m^2・K/W)	ミラフォームラムダA	吹き付け硬質ウレタンフォームA種1H	XPS3bA
1・2	屋根・天井	3.6	80	95	105
	壁	2.3	55	60	65
	床（外気に接する部分）	3.2	75	85	90
	床（その他の部分）	2.2	50	60	65
3	屋根・天井	2.7	60	75	80
	壁	1.8	40	50	55
	床（外気に接する部分）	2.6	60	70	75
	床（その他の部分）	1.8	40	50	55
4～7	屋根・天井	2.5	55	65	70
	壁	1.1	25	30	35
	床（外気に接する部分）	2.1	50	55	60
	床（その他の部分）	1.5	35	40	45

注）上記対応厚さは、ミラフォームラムダの製品規格厚さと対応しない場合があります。

余分な厚さ（5mm程度）

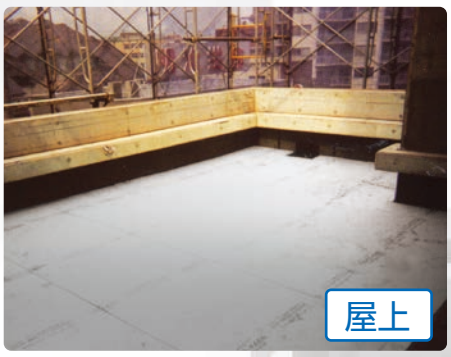
▶吹き付け硬質ウレタンフォームは吹き付けムラがあり、余分に吹き付ける必要があります。

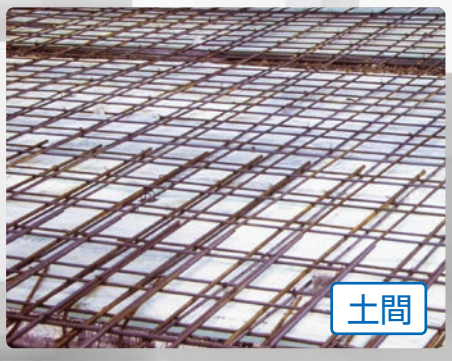
▶削り作業手間
▶ピンによる厚さ検査手間
▶厚さ不足の場合は、再度の補修吹き付け手間がかかります。

広い居住スペースが確保でき、厚さが均一で品質管理手間のかからない

『ミラフォームラムダ』を是非ご採用ください。

仕様基準
壁の必要厚さの比較（4～7地域の場合）





《取り扱い注意事項》

●火気厳禁（溶接厳重注意）

火気に接触すると燃えます。ミラフォームは燃えると黒煙を発生します。従って、輸送、保管、施工等に際しては火気に十分に注意すると共に、適切に養生してください。特に溶接・溶断等の火気を使用する場合、火花が当たらないように不燃シートなどで必ず養生してください。ミラフォームの酸素指数は26以上です。

●火気注意（保管・換気について）

ミラフォームに使用している発泡剤は可燃性ガスを使用しており、製品に微量残留しています。この可燃性ガスは、保管・施工中に大気中へ徐々に逸散し、空気よりも重いことから、ピットなどの掘り下げた閉鎖的な空間に滞留しやすい性質があります。可燃性ガスが滞留し爆発限界を超える状況下で火気に触れると火災や爆発が発生する可能性があります。そのため輸送・保管・施工時には火気と換気に十分注意してください。特に閉鎖空間での保管や施工に際しては、可燃性ガス（発泡剤）が滞留しないよう場所の選定や換気の意図的導入など設計・施工管理における注意が必要です。

●紫外線注意

直射日光に長時間曝すと徐々に表面から変色劣化し、接着不良、厚さの減少等の原因になりますので、保管に当たっては養生シートで覆い、施工後は速やかに仕上げを行ってください。

●有機溶剤注意

アルコール系以外の有機溶剤、石油類には侵されますので、接着剤、塗料等の選択及び木造住宅での防腐・防蟻薬剤の選定及び使用方法については事前にそれらのメーカーにお問い合わせください。

●高温注意

使用温度は70℃以下です。直射日光等による急激な温度上昇や多湿状態では70℃以下でも変形が起こる場合があります。
養生シートで覆う等、高温多湿状態にならないようご注意ください。

●割れ・踏み抜き注意

局部圧縮や衝撃には弱く割れやすい材料です。下地のない箇所には乗らないでください。

●強風注意

軽量で取扱が容易な反面、風にあおられやすいので強風下での作業は注意してください。また、保管に当たっては飛散防止処置をしてください。

●その他の注意

（1）フォームの屑が目に入った場合は、こすらず流水で洗浄してください。
（2）熱線スライス等、煙の発生する作業を行なう場合は、換気を十分行なってください。
（3）燃やすと黒煙（スス）がでますのでご注意ください。（廃棄の際は条例に従って処理してください。）
（4）鳥、鼠、昆虫等によって損傷を受けることがありますが、栄養源や餌にはなりません。

以上の注意事項に関しては、一般的な取り扱いを対象としたものです。それ以外の使用に関してはお問い合わせください。

株式会社 JSP 建築土木資材事業部　ホームページ　www.co-jsp.co.jp

東日本建材営業部
札幌営業所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル） TEL 011-231-2681（代） FAX 011-231-7850
仙台営業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1（青葉通パークビルディング） TEL 022-262-3271（代） FAX 022-266-9583
東日本建築グループ 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル） TEL 03-6212-6362 FAX 03-6212-6369
西日本建材営業部
名古屋営業所 〒460-0003 名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル） TEL 052-962-3225（代） FAX 052-962-3252
大阪営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町1-6-16（いちご堺筋本町ビル） TEL 06-6264-7903 FAX 06-6264-7913
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-12-17（Totsu Biz Hakata Frontビル） TEL 092-411-6863 FAX 092-474-2706
工場 北海道工場、鹿沼工場、関西工場、九州工場

お問い合わせ

2026.11.0000